

31 『トンガリぼうしの魔法つかい① / ロボット王国のぼうけん』 成井豊

○ ジャンル / ファミリー・オペレッタ
○ ストーリー / ケーキ屋のプリンさんは、実は魔法つかい。ある日、小学3年のノリコは、兄のカンタが置きっぱなしにしたオモチャを踏んで、壊してしまふ。それは、ロボットのロボジロウ。その夜、ノリコの部屋にロボット王国の王様・ロボキングがやってきて、ロボジロウを壊したことを責める。そして、ノリコをロボット王国へと連れ去る。プリンさんとカンタはすぐに後を追いかけるが……。

○ 出演者 / 男 9 + 女 5 + ♀ 計 14 + ♀
○ 上演時間 / 90分

登場人物

ケーキ屋プリンさん
トンダはかせ
虫メガネ探偵団の団員たち
カンタ（小学五年）
ノリコ（小学三年）
ママ
パパ
ロボキング（実はロボキング）
ロボット軍団のロボットたち
月の光の精たち / こわれたオモチャたち / ロボット工場の工員たち
フランス人形のシャルロット
王様の使いのロボノスケ

遠くから、教会の鐘の音が聞こえてくる。あたりは次第に暗くなっていき、やがて夜の闇に閉ざされる。月が昇る。ヨーグルト・キャンディーのように、白くて大きな満月。その光に照らされて、五つの白い影が現れる。白いマントに白いトンガリぼうし。その姿は、絵本に出てくる魔法つかいにそっくりだ。が、色だけは違う。彼らは黒くない。白い魔法つかいだ。

――――
M 1 「トンガリぼうしの魔法つかい」

魔法つかいたち

白い月が昇ったら

窓を開けて 夜空を見上げて

ほら トンガリぼうしが 通り過ぎる

悲しい寝顔の女の子には

そっと笑顔の魔法をかける

私は月の魔法つかい

トンガリぼうしの魔法つかい

魔法つかいの一人が、トンガリぼうしをとって、お辞儀をする。女の魔法つかい。名前はプリンさん。

プリンさん

はじめまして。私はトンガリぼうしの魔法つかい。子供たちには、プリンさんと呼ばれてます。みなさんはプリンが好きですか？ 私は大好き。もちろん食べるのも好きだけど、自分で作って、誰かに食べてもらう方がもっと好き。だから私は、昼間はケーキ屋さんをやっているんです。でも、夜になって月が昇ると、このぼうしをかぶって、空へ飛び立ちます。困っている人を助けるために。私の魔法で、一人でも多くの人が幸せになってくれたら、私は幸せ。月は、真っ暗な夜を少しでも明るくしようとして、地上に光を注いでいます。私も月のように、困っている人を明るくしたいんです。

魔法つかいたち

青い屋根を飛び越えて
忘れた夢 届けに行こう
さあ トンガリぼうしが 舞い降りる
ひとりぼっちの男の子には
楽しいお話 聞かせてあげる
私は月の魔法つかい
トンガリぼうしの魔法つかい

プリンさん

さてさて。今日はみなさんに、私の街で起きた不思議な出来事をお話しましょう。お話の題名は、『ロボット王国のぼうけん』。ロボットに連れ去られたノリコちゃんを助けるために、私はロボット王国というところへ行ってきました。そのロボット王国がとってもすごいところ。そこでお話を始める前に、みなさんに紹介しておきたい人がいます。その人

の名前はトンダはかせ。

魔法つかいたちが去る。

虫メガネを持った子供たちがやってくる。虫メガネ探偵団の団員たちだ。最後に現れたのは、特大の虫メガネを持った白衣の男。この人がトンダはかせ。虫メガネ探偵団の団長だ。

――――
M 2 「虫メガネ探偵団」

虫メガネ探偵団

見える見える見える
虫メガネでのぞけば なんでも見える

雪の結晶 見える見える

スマイレの花粉 見える見える

蟻の目ん玉 見える見える

はかせの虫歯

見るな見るな！

世界は不思議でいっぱいだから

僕らはいつでも忙しい

世界の不思議を全部のぞこう

僕らは虫メガネ探偵団

トンダはかせ
虫メガネ探偵団

トンダはかせ

虫メガネ探偵団の諸君、あらゆる科学は観察から始まる。「これはなん

団員1
トンダはかせ

だろう」「どうしてこうなるんだろう」そんなふうには思ったら、すぐに虫メガネでのぞくんだ。そしてじっくり観察する。それまで気づかなかった新しい事実が、きつと発見できるはずだ。はかせ、こんなところにハンカチが落ちています！よし、虫メガネでのぞくんだ！

団員たちが虫メガネで一斉にのぞく。

トンダはかせ

何が見える？

団員2

ハンカチが見えます！

トンダはかせ

それはわかっとする。どんなハンカチだ。

団員3

白いハンカチです！

団員4

でも、すごく汚れているので、白って言うより茶色です！

団員5

あっ！ ハジッコのところに、赤いシミがついてます！

トンダはかせ

それは血だ。

団員たち

えっ？

トンダはかせ

殺人事件が起きたんだ。犯人は、自分の手についた血を、そのハンカチ

カンタ

で拭いた。つまり、そのハンカチは、犯人のものなんだ。

トンダはかせ

でもこの血、ケチャップの匂いがします。

カンタ

犯人は、事件の前にオムライスを食べたんだ。

トンダはかせ

あっ、裏に名前が書いてある。……トンダはかせ。

トンダはかせ

うんうん。私もお昼はオムライスを食べた。

団員たち

はかせー！

トンダはかせがカンタの手からハンカチを奪い取る。

トンダはかせ

偉い。偉いぞ、カンタくん。このハンカチが私のものだ、よく見破つたな。これも君が虫メガネをのぞいて、じっくり観察したからだ。ガリレオもニュートンも、君みたいに観察したから、すばらしい発見ができた。虫メガネ探偵団の諸君、あらゆる科学は観察から始まる。今日も虫メガネをしっかりと握って、目に入った不思議なものをじっくり観察するんだ！

虫メガネ探偵団

見える見える見える
虫メガネでのぞけば なんでも見える
廊下の足あと 見える見える
ガラスの指紋 見える見える
机の髪の毛 見える見える
はかせの鼻毛

トンダはかせ

見るな見るな！

虫メガネ探偵団

世界は不思議でいっぱいだから
僕らはいつでも忙しい
世界の不思議を全部のぞこう
僕らは虫メガネ探偵団

そこへ、エプロン姿のプリンさんがやってくる。

プリンさん

トンダはかせ

プリンさん

トンダはかせ

プリンさん

カンタ

プリンさん

カンタ

トンダはかせがカンタの口をふさぐ。

トンダはかせ

いや何、これから始めるところです。ところでプリンさん。あなたは最近、何か不思議に思ったことはありませんか？ もしあったら教えてください。われわれ虫メガネ探偵団が観察して、たちどころに解決してみせますぞ。

そう言えば、さつきマーケットで不思議な話を聞きました。

不思議な話とは？

隣の街に住んでいる子供たちのオモチャが、次々と消えてるんですって。

オモチャが消える？

外に置きっぱなしにしたり、地面に落としてこわしたりすると、次の日には影も形もなくなってるんです。

誰かが持って行ってしまいませんか？

トンダはかせ

プリンさん

トンドはかせ

プリンさん

トンドはかせ

わかりません。
しかし、オモチャが歩いてどこかへ行くわけもないし。
もしかしたら、子供たちに大切にしてもらえないのが悲しくて、家出しちゃったのかも。

プリンさん

オモチャが家出するわけじゃないでしょう。これはきつと、オモチャを専門に狙っている泥棒の仕業だ。虫メガネ探偵団の諸君、君たちもオモチャはたくさん持っているだろう。泥棒に盗まれないように、ちゃんと後片づけをしなくちゃいかなぞ。
みんなのオモチャは、ちゃんと後片づけしてある？

団員たちが一斉に口をあて、「しまった」という顔。

トンドはかせ

こら！ 虫メガネ探偵団の団員が、そんなことでどうする！ すぐに家に帰って、後片づけしてくるんだ！

団員たちが一斉に駆け出す。と、カントが急に立ち止まり、

カント

そうだ！

トンドはかせ

どうしたカントくん。

カント

今日は僕の誕生日なんです。うちで誕生日パーティーをやるんで、よかつたら、みんなに来てください。

トンドはかせ

そうか、誕生日か。これは虫メガネ探偵団全員でお祝いをしなくてはならないかな？ 私も行っていけないかな？

カクタ

プリンさん

カクタ

プリンさん

トンドはかせ

もちろん！

私は？

もちろん、プリンさんも！

それじゃ、腕によりをかけて、とびきりおいしいケーキを作っていくわ。楽しみにしていてね。

ケーキだケーキだ！ うれしいな。今日は一人前にしてあげよう。私はケーキだったから百人前だって食べられるぞ。

みんなにジッと見られているのに気づいて、

トンドはかせ

ゴホン。あんまり食べすぎると太るからな。今日は一人前にしておこう。それでは、今日はこれで解散。後でカクタくんのように集合だ。

団員たち

オーッ！

虫メガネ探偵団が去る。

プリンさん

あの人がトンドはかせ。虫メガネ探偵団の団長さんです。はかせっていうのはあだ名じゃありませんよ。あの人は、正真正銘の科学者。なんでも、ロボットの研究では世界的に有名なんだって。いつもおうちの実験室にこもって、機械いじりばかりしています。でも、夕方になつて、団員たちが集まってくると、虫メガネを持って外に飛び出す。本当は機械より、人間の方が好きなんですわ。さしてきて。もう一人、みなさんに紹介しておかなくちゃいけない人がい

ました。今日のお話の主人公の、ノリコちゃんです。

プリンさんが去る。

ロボットを持って、ノリコがやってくる。

ノリコ　　ママ！　ママ！

エプロンで手を拭きながら、ママがやってくる。

ママ

どうしたの、ノリコ。

ノリコ

お兄ちゃんのロボット、こわしちゃった。

ママ

どれどれ？　あら、頭のアンテナが取れちゃったの？

ノリコ

外の階段のところにおいてあったの。私、知らないで踏んじやって。

ママ

カンタが置きっぱなしにしたのね。使ったらちゃんと言いなさいって

ノリコ

いつも言ってるのに。

ママ

お兄ちゃん、きつと怒るよね？

ノリコ

ノリコは悪くありません。悪いのは、ロボットを置きっぱなしにした、

ママ

カンタの方よ。

ノリコ

お兄ちゃんが怒ったら、助けてくれる？

ママ

ママに任せなさい。カンタがノリコを怒る前に、ママがカンタを怒るか

ら。

そこへ、カンタがやってくる。

カンタ

ただいま。

あらカンタ、ちょうどいいところに帰ってきたわ。ちよつとそこに座りなさい。

カンタ

あつ！ ロボジロウのアンテナが取れてる！ ママがやったの？

ママ

ママじゃなくて、ノリコがやったの。でも、その前に話があるから、そ

カンタ

ここに座りなさい。
パパ！ パパ！

カンタが去る。

ママ

あらあらあら。

ノリコ

ママったら、お兄ちゃんを怒るんじゃないの？

ママ

怒るヒマがなかったのよ。カンタはパパを味方につけるつもりだわ。

ノリコ

どうしよう。

パパなんか負けるもんですか。この家で一番偉いのは誰か、よくわからせてやるわ。

カンタがパパの手を引いてやってくる。

カンタ

ほら、見てよパパ。

パパとカクタ
パパ

パパとカクタ

ママとノリコ
ママ

ママとノリコ

女はワガママ 女はワガママ
男がいなくちゃ なんにもできないせに
男のすること ちゃんとしたんで

新聞読んだら テレビ見ないで
食事しながら そこをどいて
お掃除するのよ キレイって言うて
お化粧したのよ
朝から晩まで
あーしろこーしろあーしろこーしろ
女はワガママ 女はワガママ

男はワガママ 男はワガママ
女がいなくちゃ なんにもできないせに
女のすること なんでも文句をつける
帰ってくるなり メシ、風呂、寝る
電話でおしゃべり いつまでやってる
買い物に行くと サッサと選べ
お化粧していると いまさらムダだ
朝から晩まで
わかたわかつたうるさい
男はワガママ 男はワガママ

パパとカ
ンタ
ママとノ
リコ
パパとカ
ンタ
ママとノ
リコ
みんな

女はワガ
ママ
男はワガ
ママ
女はワガ
ママ
男はワガ
ママ
みんなワ
ガママ

そこへ、プリンさんがやってくる。

プリンさん
ママ
プリンさん
ママ
プリンさん
ママ
プリンさん
ママ
ママ
ママ
ママ
ママ
ママ
ママ

こんばんは。
あらプリンさん、こんばんは。
もしかして、夫婦ゲンカですか？
まさか、ケンカだなんて。なあママ。
いやだわ、こんなに仲がいいのに。ねえパパ。
ところで、誕生パーティーはまだ始まってないんですか？
もうそろそろ始めようかと思ってたんですよ。
もう準備はできてます。お客様がそろったら、すぐに始めましょう。
行こうかママ。(と腕を差し出す)
行きましようパパ。(と腕をつかむ)
カンタも早くおいで。今日はおまえの誕生日なんだからな。
ノリコも早くいらっしやい。ロボットなんか放っておいて。

パパとママが去る。

カ
ン
タ
ノ
リ
コ

(ノリコに) おまえがこわしたんだからな。おまえが直せよな。
でも、お兄ちゃんが置きっぱなしにしたから———

カ
ン
タ
が
去
る
。

ノ
リ
コ

……どうしよう。

プ
リ
ン
さ
ん

どうしたの、ノリコちゃん。

ノ
リ
コ

ウウン、なんでもない。

ロ
ボ
ツ
ト
を
持
っ
て
、
ノ
リ
コ
が
去
る
。

プ
リ
ン
さ
ん

ノリコちゃん、かわいそうね。確かにこわしたのはノリコちゃんだけど、置きっぱなしにしたのはカントくんじゃない。それなのに、ノリコちゃんだけのせいにして。いけない、パーティーが始まっちゃう。私も急いで行かなくちゃ。

プ
リ
ン
さ
ん
が
去
る
。

トンダはかせと虫メガネ探偵団がやってくる。続いて、パパとママがやってくる。最後にカンタがやってくる。みんながカンタに拍手する。

—————
M 4 「ハッピー・バースデー」

ト虫パマ

ハッピー・バースデー
生まれてきてよかったね

ハッピー・バースデー
君に会えてよかったよ

トンダはかせ

大きな宇宙の小さな地球で
君は生まれた 今日生まれた

僕のすぐそばで生まれた
君の目 君の声 君の笑い顔

みんなステキだよ
ハッピー・バースデー

ト虫パマ

ハッピー・バースデー
生まれてきてよかったね

ハッピー・バースデー
君に会えてよかったよ

大きなケーキを乗せた台を押して、プリンさんとノリコがやってくる。

プリンさん

熱い夏の日 寒い冬の日

君は生きてゆく ずっと生きてゆく

僕と一緒にずっと生きてゆく

君の夢 君の歌 君の走る姿

みんなステキだよ

ハッピー・バースデー

生まれてきてよかったね

ハッピー・バースデー

君に会えてよかったよ

カントがロウソクの火を吹き消す。みんながカントに拍手する。

トンダはかせ

おめでとうカントくん。虫メガネ探偵団を代表して、一言お祝いの言葉を述べさせてもらうぞ。ゴホン。おめでとう。よし、ケーキを食べるとするか。

パ

トンダはかせ

もうおしまいですか？
お祝いの言葉なんて、短ければ短いほどいいんだ。それよりケーキを早く食べよう。

プリンさん
トンダはかせ

ナイフはありますか？
ナイフナイフ、ナイフはどうした。

ノリコがトンダはかせを隅に引っ張って行く。

ノリコ

トンダはかせ

はかせはロボットのはかせなんでしょ？

トンダはかせ

そうだよ。私の専門はロボットの研究だ。ロボットに関するのなら、

ノリコ

トンダはかせ

わからないことなど一つもない。それじゃ、オモチヤのロボットのこともわかる？

ノリコ

トンダはかせ

もちろんだとも。

ノリコ

トンダはかせ

こわれたのを直せる？

ノリコ

トンダはかせ

なんだ、ノリコちゃんは、自分のロボットをこわしたのか。

ノリコ

トンダはかせ

私のじゃなくて、お兄ちゃんのこと。ちよつと待ってて。今、持ってくるから。

ら。

ノリコが去る。

トンダはかせ

今じゃなくて、ケーキを食べた後にしてくれないか？　ちよつと、ノリ

コちゃん、ノリコちゃんてば。

パパがやってくる。

パパ

トンダはかせ

食事の準備ができました。みんな、こっちに来ててください。

パパ

トンダはかせ

食事よりケーキが食べたい。ケーキも向こうで食べましょう。

る。パパとトンダはかせがケーキを持って去る。続いて、虫メガネ探偵団とプリンさんも去

ノリコがやってくる。あたりをキョロキョロ見回す。

ノリコ　あれ、ロボットがない。ロボットがどこかに行っちゃった。

などと言いながら探しているが、

ノリコ　あつ、あつた！

見ると、遠くに大きなロボットが立っている。ノリコがロボットに駆け寄る。が、直前で立ち止まって、

ノリコ　でも、このロボット、さっきよりずっと大きくなってる。ロボットって、

成長するのかな。

ロボキング　成長なんかするわけないだろう！

ノリコ　ワアッ！

ノリコがビククリして逃げる。

ロボキング　俺様は、生まれた時からこの大きさだ。ロボット王国広しと言えども、

ロボット軍団

ロボキング

ロボット軍団

ロボキング

ロボット・ロック ロボット・ロック
 機械じかけのロック ロボット・ロック
 ロボット・ロック ロボット・ロック
 冷たいハートのロック ロール
 俺はロボット ロボットだけ
 友だちだけは裏切らねえ
 買った時にはチャホヤしても
 中途半端は許せねえ
 外で遊べば置きっぱなし
 投げて落としてこわしっぱなし
 自分勝手な人間どもに
 ロボットの気持ちはわからねえ だから
 俺は助ける ロボットたちを
 ロボットよりもハートの冷たい
 子供という名の悪魔から

ロボット・ロック ロボット・ロック
 機械じかけのロック ロール
 ロボット・ロック ロボット・ロック
 冷たいハートのロック ロール
 俺はロボット ロボットだけ
 友だちだけは裏切らねえ
 買った時にはチャホヤしても

飽きたらすぐにポイッと捨てる
毎日一緒に遊んできたのに
俺たちや一体なんなんだ　だから
俺は戦う　人間どもと
ロボットよりもハートの冷たい
子供という名の悪魔と

ノリコ
ロボキング

悪魔だなんて、ひどい。

ひどいもんか。自分がしたことをよく思い出してみる。おまえはロボジ
ロウのアンテナを、その足で踏んづけて折ったんだ。

ノリコ
ロボキング

知らなかったのよ、そこにロボジロウがいるなんて。

知らなかったではすまされない。もしおまえが誰かに腕の骨を折られて、
その誰かが知らなかったと言ったら、おまえは許すか？

ノリコ
ロボキング

それは……。

俺様はロボット王国の王様だ。俺様と同じロボットが、人間どもにいじ
められるのを、黙って見ているわけにはいかない。だからこうして助け
に来たんだ。さあ、ロボジロウをここに出せ。

ノリコ
ロボジロウ

なんだと？

さっきまでこの部屋にいたのに、今来てみたらどこにもいないの。

ノリコ
ロボジロウ

ウソをつくな。

ウソじゃないって。疑うんなら、自分で探しなさいよ。ほら、やっぱり
いないでしょう？

ロボジロウ
まさか、捨てたのか？ ちよつとアンテナが取れたただけなのに、もうこんなものには用はないって、ゴミ箱の中に放り込んだのか？
ノリコ そんなことしてません。

ロボット軍団の一人が、机の上から紙を取り上げる。

ロボット1
ロボキング様、たいへんです！

ロボット1
ロボキングじゃない、ロボキングだ。

ロボット1
ちよつとこれを見てください！（とロボキングに紙を渡す）

ロボキング
何々……、「カンタくとノリコちゃんへ、僕はロボット王国に行きま

す、今まで遊んでくれてありがとう、ロボジロウ」

ノリコ
ロボジロウの手紙だ。

ロボキング
どういうことだ。俺様が来る前に、自分一人でロボット王国に帰るなんて。

ノリコ
これじゃ、まるで家出みたい。

ロボキング
そうか。これ以上ひどい目に合わないように、自分からこの家を出て行

ったんだ。どうやらおまえは、ロボジロウのことをよほどひどくいじめ

たらしいな。

ノリコ
私はいじめてなんかいない。

ロボキング
おまえにいじめるつもりはなくても、ロボジロウには我慢できないほど

辛かったんだ。よし、俺と一緒に来い。

ノリコ
どこへ行くの？

ロボキング
ロボジロウに会わせてやる。ロボジロウの口から、おまえにいじめられ

ノリコ
ロボキング

てどんなに辛かったか、話を聞かせてやる。
ロボット王国へ行くの？
よし、出発だ。

ロボキングとノリコが去る。続いて、ロボット軍団が去る。

パパとママがやってくる。

パパ ノリコ、早く来ないと、ケーキがなくなっちゃうぞ。
 ママ トンダはかせに全部食べられちゃうわよ。ノリコ。
 パパ おかしいな。確かにこの部屋に入ったのに。

トンダはかせがやってくる。

トンダはかせ ノリコちゃんはどうしました？
 ママ それがどこにもいないんです。
 トンダはかせ ロボットを取りに行くって言ってたんですけどね。
 パパ それならこの部屋にいるはずなんですが。
 トンダはかせ よし、われわれ虫メガネ探偵団が調べてみましょう。虫メガネ探偵団、
 全員集合！

カಂತと虫メガネ探偵団がやってくる。後からプリンさんもやってくる。

トンダはかせ 虫メガネ探偵団の諸君、重大事件の発生だ。ノリコちゃんが行方不明に

虫メガネ探偵団

なった。ロボットを取りに行くと言ったまま、この部屋から姿を消したんだ。みんな、虫メガネは持っているな？ この部屋の中を観察して、ノリコちゃんの行く先を突き止めるんだ！

団員たちが虫メガネで一斉にのぞく。

トンダはかせ

どうだ。何か変わったところはないか？

カンタ

はかせ、ロボジロウがどこにもありません。

トンダはかせ

ロボジロウってなんだ？

カンタ

僕のロボットです。ノリコが足で踏んづけて、アンテナを折っちゃったんです。

トンダはかせ

ノリコちゃんは、そのロボットを取りに行ったんだ。ノリコちゃんがい

パパ

なくなると同時に、ロボットも消えたのか。そうか、わかったぞ！

トンダはかせ

ノリコの行方がわかったんですか？

ママ

お父さん、お母さん、落ち着いて聞いてください。ノリコちゃんは誘拐

ママ

されたんです。

トンダはかせ

なんですって？

トンダはかせ

ノリコちゃんがこの部屋に入った時、そこにはオモチヤ泥棒がいたんで

パパ

す。最近、隣の街では、子供たちのオモチヤが次々と盗まれているらし

パパ

い。その犯人が、カンタクんのロボットを盗もうとしていたんです。

パパ

そこへノリコがやってきたので、ノリコも一緒にさらっていったんです

ね？

トシダはかせ
ママ
トシダはかせ

その通り。
ノリコを、ノリコを助けてください！
助けたいのはヤマヤマですが、いったいどこへ連れて行かれたのか。

虫メガネ探偵団の一人が、机の下から紙を取り上げる。

団員 1
トシダはかせ
パパ
トシダはかせ
ママ
トシダはかせ
パパ
トシダはかせ
ママ
トシダはかせ
パパ
ママ
トシダはかせ

はかせ、これを見てください！（トシダはかせに紙を渡す）
何々……、うーん、これは地図だな。しかも、この街の地図らしい。このマル印は、カンタくんの家だろう。
そうです。この家です。
そうか、わかったぞ！
ノリコの行方がわかったんですか？
この地図は、オモチヤ泥棒の地図なんです。やつはこの地図を頼りにして、この家にやってきたんだ。マル印がついているのはそのためです。
でも、それだけじゃ、ノリコの行方はわからない。
よく見てください。マル印の他にもう一つ、バツ印がついている。
本当だわ。
このバツ印が、オモチヤ泥棒の隠れ家なんだ。そこへ行けば、ノリコちゃんを連れ戻すことができます。
はかせ！
はかせ！
ノリコを助けてください！
虫メガネ探偵団の諸君、とうとうわれわれの腕前を見せる時がやってき

た。敵はオモチャ泥棒だ。子供たちのオモチャを盗む悪いやつだ。しかし、こわがることはない。正義は必ず勝つ。コテンパンにやっつけて、ノリコちゃんを助け出すんだ。よし、出発だ！

――――
M 6 「虫メガネ探偵団」

虫メガネ探偵団

世界は不思議でいっぱいだから

僕らはいつでも忙しい

世界の不思議を全部のぞこう

僕らは虫メガネ探偵団

トンダはかせと虫メガネ探偵団が去る。続いて、パパとママも去る。

プリンさんが、部屋から出て行こうとしたカントの手を引っ張る。

プリンさん

カント

プリンさん

カント

プリンさん

カント

プリンさん

カント

プリンさん

カント

プリンさん

カント

カントくん、ちょっと待って。手を放してよ。僕も一緒に行かなくちゃ。行ってもムダよ。

どうして？

だって、さっき地図は、この街の地図でしょ？ バツ印がついていたのは、この街のどこかじゃない。ということは、オモチヤ泥棒はこの街の人ってことになる。この街の人が、オモチヤを盗むなんて悪いことをすると思う？

それじゃ、さっきの地図は、オモチヤ泥棒の地図じゃないって言うの？ たぶんね。でも、私にもはっきりしたことはわからない。

なんだ、プリンさんにもわからないのか。

ねえ、カントくん。ノリコちゃんがこのまま帰ってこなかったら、どうする？ やっぱり困る？

困るよ。だって、僕の妹だもの。

ロボジロウをこわしたのに？

……あれは、僕が外に置きっぱなしにしたから。

プリンさん

でも、お父さんには、ちゃんと片づけたって言ったじゃない。

カント

だって、ノリコが生意気なこと、言うんだもん。

プリンさん

ウソをついたこと、反省してる？

カント

…：ウソ。

プリンさん

それじゃ、ノリコちゃんがどこに行ったか、私が調べてあげるわ。

カント

どうやって？

プリンさん

そうね。

プリンさんが部屋の中を見回す。部屋の隅に、フランス人形が置いてある。

プリンさん

あのフランス人形に聞いてみましょう。

カント

そんなこと、できるわけないよ。

プリンさん

私一人じゃできないわ。でも、月の光に助けてもらえば、きっとできる。

カント

でも、人形がどうやって口をきくの？

プリンさんがトンガリぼうしを持ってきて、かぶる。

―――
M7 「ムーンライト・マジック」

プリンさん

お願い 月の光よ

私の声を聞いてよ

闇に迷った旅人に

道を教えるその光で

私の悲しみ消して
明日はきつといい日が来ると
信じていたから
ルーナルーナルー

月の光の精たちがやってくる。

プリンさん

お願い月の光よ 私の声聞いてよ
家をなくした子犬に ほほえみかけるその光で
私の寂しさ消して いつかまた
あの人に会えると 信じていたから
ルーナルーナルー

プリンさん
カナタ

さあ、カナタくんも一緒に言っ
て。ルーナルーナルー！

月の光の精たちがフランス人形を包む。まぶしい光。月の光の精たちが去る。後に残ったフランス人形が、ゆっくりと立ち上がる。

カナタ
プリンさん
シヤルロット
プリンさん

あっ！ 人形が立ち上がった！
こんばんは、フランス人形さん。
私の名前はフランス人形じゃないわ。
それじゃ、なんて名前なの？

シャルロット
カンタ
人に名前を聞く時は、先に自分の名前を言うものよ。
生意気なやつ。

プリンさん
シャルロット
(カンタに小声で) フランス人形はみんなこういう性格なの。
何か言った？

プリンさん
シャルロット
ごめんなさい。私の名前はプリン。この子は私の友だちで、カンタくん。
知ってるわ。ノリコちゃんのお兄さんでしょ？

プリンさん
シャルロット
あなたの名前は？
私の名前はシャルロット。ノリコちゃんがつけてくれたのよ。どう？

カンタ
えー、そうかなあ————

プリンさんがカンタの口をふさぐ。

プリンさん
ええ、とつてもすてきね。ところで、そのノリコちゃんのことなんだけ
ど、シャルロットは知ってる？ ノリコちゃんがどこへ行ったか。

シャルロット
プリンさん
さあね。
よかつたら、教えてくれない？ もし誰かに連れ去られたとしたら、す
ぐに後を追いかけて、どうするの？

シャルロット
プリンさん
後を追いかけて、どうするの？

シャルロット
プリンさん
決まってるじゃない。連れ戻すのよ。

プリンさん
シャルロット
本当かしら。
どうして疑うの？
だって、そこにいるカンタくんは、いつもノリコちゃんをいじめてるじ

プリンさん

シャルロット

プリンさん

カント

シャルロット

プリンさん

シャルロット

プリンさん

シャルロット

プリンさん

シャルロット

プリンさん

シャルロット

プリンさん

シャルロット

プリンさん

カント

プリンさん

カント

やない。あなたはカントくんの友だちなんですよ？信用できないわ。カントくんはノリコちゃんのことを、本気で心配してるの。私たち二人で、きつと連れ戻してみせるわ。

本当かしら。

本当よ。ねえ、カントくん。

本当だよ。約束する。

それじゃ、教えてあげる。ノリコちゃんは、ロボット王国に行ったわ。

ロボキングと一緒に。

ロボキング？

ロボット王国の王様だって言ってた。そんなふうには見えなかったけど。

ロボジロウも一緒に？

ロボジロウは先に行ったわ。ロボキングの使いと一緒に。

ちよつと待って。ロボキングが来る前に、ロボキングの使いが来たの？

そうよ。

頭がこんがらがってきた。

つまり、最初にロボキングの使いが来て、ロボジロウを連れて行って、

次にロボキング本人が来て、ノリコちゃんを連れて行ったのね？

さつきからそう言ってるでしょ？

どっちにしても、ロボット王国へ行ったことは間違いないようね。

ロボット王国って、どこにあるの？

知らないわ。でも、私のホウキが連れて行ってくれる。

ホウキに乗って行くの？それじゃ、やっぱりプリンさんは魔法つかいな

んだね？

プリンさん
カクタ
プリンさん
プリンさん
プリンさん
カクタ
プリンさん
プリンさん
カクタ
プリンさん

誰にも言わないでね。
言わないよ。ホウキに乗せてくれるなら。
カクタくんも行くの？
もちろん。
何が起きても知らないわよ。どんなにこわい目に合っても、自分の力で
なんとかするのよ。自信はある？
プリンさんがいれば大丈夫だよ。
私にもしものことがあったら、カクタくん一人でやりぬける？
：：がんばるよ。だって、ノリコは僕の妹だもの。
よし、それじゃ私の家に行きましよう。ホウキに乗って、ロボット王国
へ出発よ。

プリンさんとカクタが去る。

―――
M 8 「オモチヤの思い出」

たくさんの人形が現れる。かわいらしい人形たちの踊り。やがて、一人の人形の動きが止まる。どうやらこわれたらしい。次々と人形たちがこわれていく。最後に残った人形の動きが止まった時、ロボキングとノリコがやってくる。後からロボット軍団もやってくる。

ノリコ

ここがロボット王国？

ロボキング

違う。ロボット王国はこの先だ。ここはこわれたオモチヤたちが眠る、

ノリコ

墓場？

ロボキング

もうどんなに直しても、生き返ることはない。それほど乱暴に、人間どもにいじめられたんだ。

―――
M 9 「こわれたオモチヤのバラード」

ロボキング

人が年を取るより早く

オモチヤはこわれる

ロボット軍団
ロボキンググ
ロボット軍団
ロボキンググ

痛くても 苦しくても
オモチヤは泣かない
眠れオモチヤ いつまでも
もう子供は大人になった
眠れオモチヤ いつまでも
自分の夢を見ながら

ロボット軍団
ロボキンググ
ロボット軍団
ロボキンググ

初めての日 抱き締められて
オモチヤは笑ってた
キレイな服 破かれても
オモチヤは黙ってた
眠れオモチヤ いつまでも
もう子供は大人になった
眠れオモチヤ いつまでも
自分の夢を見ながら

ロボキンググ

俺様はロボット王国の王様だが、世界中のオモチヤの味方だ。人間どもにいいじめられたオモチヤは、全部俺様が助ける。ロボット王国のロボット工場に連れて行って、こわれたところを直す。しかし、どんなに直しても元に戻らないオモチヤもある。
だからここで眠ってるんだ。
人間どもは何も知らない。さんざんオモチヤをいじめておいて、こわれたら見向きもしない。

ノリコ
ロボキンググ

ノリコ
ロボキング

でも、わざといじめる人なんていないよ。
わざとであろうとなかろうと、オモチヤは毎日こわされてるんだ。俺様

ノリコ
ロボキング

は、絶対に人間を許さない。オモチヤをこわした人間は絶対に。
……私も？
さあ、行くぞ。ロボット王国はすぐそこだ。

ロボキングとノリコが去る。続いてロボット軍団も去る。

トンダはかせと虫メガネ探偵団がやってくる。

————— M10 「虫メガネ探偵団」

虫メガネ探偵団

世界は不思議でいっぱいだから

僕らはいつでも忙しい

世界の不思議を全部のぞこう

僕らは虫メガネ探偵団

トンダはかせが立ち止まる。

トンダはかせ

よし、この地図に従えば、オモチヤ泥棒の隠れ家はここだ。虫メガネ探

偵団の諸君、準備はいいか。

団員1

はかせ、ちよつと待ってください。

トンダはかせ

なんだ、こわいのか。虫メガネ探偵団の団員がそんな弱虫では困るぞ。

団員2

そうじゃなくて、ちよつとおかしいんです。

トンダはかせ

何もおかしなことはない。このバツ印は確かにこの家だ。ノリコちゃん

はこの中にいる。今頃は、手足を縄で縛られて、天井からブラ下げられて、シクシク泣いているに違いない。ノリコちゃん、もう少しの辛抱だ

団員3
トンダはかせ

よ。すぐに助けてあげてからね。
でも、この家、前にも見たことがありませんか？
家なんて、みんな似たような作りをしてるじゃないか。屋根があつて、窓があつて、玄関がある。よし、玄関から堂々と入つてやろう。虫メガネ探偵団の諸君、突撃だ！

トンダはかせが一人で突撃する。

トンダはかせ

ヤーヤーヤー、我こそは虫メガネ探偵団の団長、トンダはかせなるぞ！
いざ尋常に勝負勝負！
はかせ、誰も出てきません。

団員4
トンダはかせ

さては、私が来たのに気づいて逃げ出したな。泥棒のくせに度胸のないやつらだ。ん？ この部屋はどこかで見たことがあるな。この望遠鏡は前にも見たぞ。おお、名前が書いてある。「トンダはかせ」

団員5
トンダはかせ

ここははかせの家なんですよ。
なんと、オモチャ泥棒の隠れ家は、私の家だったのか。ということは、オモチャ泥棒の正体は、この家に住んでいる私だということになる。そんな、私はオモチャなんか盗んでないぞ。私は無実だ。助けてくれ。

団員たち

そこへ、小さなロボットがやってくる。

ロボノスケ

こんばんは。

トンダはかせ

ロボノスケ

トンダはかせ

ロボノスケ

トンダはかせ

ロボノスケ

トンダはかせ

ロボノスケ

トンダはかせ

ロボノスケ

トンダはかせ

ロボノスケ

トンダはかせ

ロボノスケ

トンダはかせ

ロボノスケ

もうおまわりさんが来たのか？ おまわりさん、助けてください。私はオモチャなんか盗んでません。牢屋にだけは入れないでください。

トンダはかせはあなたですか？

なんと、ロボットがしゃべったぞ。

トンダはかせはあなたですか？

いかにも、トンダはかせは私だが、君は？

ロボット王国からやってきました。王様の使いのロボノスケです。

ロボット王国の王様が、私に何の用だね。

今すぐロボット王国に来てほしいんです。はかせの力がぜひとも必要なんです。

急にそんなことを言われても困るな。私は今、行方不明になったノリコ

ちゃんを探してるんだ。

お願いします。はかせが来てくれないと、ロボット王国は滅亡してしま

うんです。

しかし……

ロボット王国を救えるのは、はかせだけなんです。はかせはロボットの

研究では世界一だから。

世界一？ 私が世界一だって？

世界一のはかせにしか、頼めない仕事なんです。

よし、行こう。そこまで言われて断るわけにはいかん。何しろ私は、世

界一のはかせなんだからな。で、ロボット王国はどっちだ。

その前に、僕の地図を返してください。

ロボノスケがはかせの手から地図を取る。

トンダはかせ

えっ？ この地図は君のものだったの？

ロボノスケ

これがないから、はかせの家を探すのに苦労しました。さあ、行きましよう。

トンダはかせ

虫メガネ探偵団の諸君、しばらくのお別れだ。

団員1

はかせ、ノリコちゃんはどうするんですか？

トンダはかせ

とりあえず、カンタくんの家で待ってなさい。帰ってきたら、また初めからやり直すことにしよう。それでは虫メガネ探偵団の諸君、さらばだ。

団員たち

はかせー！

ロボノスケとトンダはかせが去る。後を追って、虫メガネ探偵団も去る。

ロボット工場のロボット工員たちがやってくる。一番最後にやってきたのは、ロボット工場の工場長。

工場長

さあ、みんな、こわれたオモチャがまたいっぱい来たぞ。遊んでないで、働け働け！

———
M「ロボット工場」

工員たち

どこが痛いか言ってくれ
こわれたところを言ってくれ
俺たちやなんでも直してみせる
ロボット工場はオモチャのドクター

ロボキングとノリコがやってくる。

ロボキング

ここはロボット工場。人間どもにこわされたオモチャは、この工場ですんだ。どうだ、みんなよく働いているだろう。
ノリコ
とつても忙しそう。

ロボキング

俺様が、毎日たくさんのおモチヤを連れてくるからな。工場は、朝から晩まで大忙しだ。おい、工場長、仕事の調子はどうか。

工場長が仕事をやめて近寄ってくる。

工場長

これはこれはロボキング様。

ロボキング

ロボキングじゃない、ロボキングだ。

工場長

朝から晩まで大忙しで、休むヒマありません。

ロボキング

人間と違って、ロボットは疲れないんだ。休む必要はないだろう。

工場長

確かに疲れはしませんが、カラダがどんどん熱くなっていきます。やっぱり少しは休まないと。

ロボキング

ダメだダメだ。こわれたオモチヤは、他にもまだたくさんいるんだ。

工場長

しかし、工場のコンピューターはヤケドしそうなくらいに熱くなってます。

ロボキング

熱くなっているなら冷やせばいい。水でもぶっかけてやれ。

工場長

そんな、コンピューターに水をかけるなんて。

ロボキング

うるさいうるさい。文句を言っているヒマがあったら、一つでも多くのオモチヤを直すんだ。

工場長が仕事に戻る。

ロボキング

この工場では小さすぎるんだ。もっと工場を増やさないと、こわれたオモチヤがどんどんたまってしまふ。しかし、工場を増やしたら、そこで

ノリコ 働くロボットも増やさなければならぬ。
ロボキング ロボット王国も人手不足なのね。
ノリコ だからおまえを連れてきたのさ。
なんですつて？

ロボキングがノリコの手を引っ張って去る。

工員たち

ネジが取れたらくっつける
バネがのびたら取り替える
俺たちやなんでも直してみせる
ロボット工場はオモチャのドクタ―

プリンさんとカントがやってくる。

プリンさん

カント

隣の町で盗まれたオモチャは、みんなここに運ばれていたのね。人間が直さないから、ロボットが直してるのよ。こわしたのは人間なのに。僕も今までたくさんオモチャをこわしてきた。ロボジロウだって、外に置きっぱなしにしたし。

プリンさん

カント

どう？ ロボジロウはいない？
いないみたい。

みんなロボットだから、区別がつかないわね。でも、ノリコちゃんがいればすぐにわかるわ。ロボットしかいない国だと、人間は目立つから。

工場長が仕事をやめて近寄ってくる。

工場長
プリンさん

こらこら、おまえたちはなんだ。あ、私たちは見学者です。今日は社会科の授業で、工場を見学することになっていて。

工場長

そんな話は聞いてないぞ。おや、おまえたちのカラダは柔らかいな。もしかして、おまえたちは人間か？

プリンさん
カクタ

まさか、あたしたちはオモチャですよ。（カクタに）ねえ。僕たちは人形です。

プリンさん
工場長

そうそう。私はフランス人形です。フランス人形にしては、あんまりかわいくないな。

プリンさん
工場長

まあ、失礼ね。そうか、こわれてるんだな。よしよし、すぐに直してやるから、向こう

カクタ

の入口に行きなさい。
ハイ！

工場長が仕事に戻る。

プリンさん
カクタ

何よ。私はこわれてなんかいないわよ。まあまあ、怒らないで。それより早くノリコを探し出さなくちゃ。

その時、チャイムの音が聞こえる。

放送の声

臨時ニュースをお知らせします。ただいまより、ロボット城前の広場に

ロボキングの声

おきまして、臨時裁判が行われます。裁判官はロボキング――

放送の声

被告は人間の女の子のノリコです。

プリンさん

なんですって？

放送の声

ノリコについて証言したいロボットは、ただちにロボット城前の広場に

来てください。

チャイムの音。

プリンさん

たいへんよ、ノリコちゃんが裁判にかけられるんですって。

カンタ

ノリコは何も悪いこと、してないよ。

プリンさん

ロボジロウをこわしたじゃない。急いで行かないと、とんでもないことになるわ。さあ、行きましょう。

プリンさんとカンタが去る。

工場長

みんな、裁判が始まるぞ。私たちも行ってみよう。

工場長と工員たちも去る。

ファンファールの音。ノリコとロボット軍団がやってくる。ノリコは、二人のロボットに両腕をつかまれている。最後にロボキングがやってくる。ロボキングはマントをはおって、裁判官の恰好をしている。

ロボキング

広場にお集まりの皆さん。ただいまより、臨時裁判を始めます。裁判官

ノリコ

は私、ロボキング。そして被告は、人間の女の子のノリコ。

ロボキング

私は何も悪いこと、してないわよ。
静粛に静粛に。被告は、私が質問するまで口をきかないように。それでは検事、被告の罪状を読み上げなさい。

ロボット軍団の一人が、ノートを開く。

ロボット1

被告ノリコは、兄カンタの所有するロボットのロボジロウを、足で踏ん

ロボキング

づけて、そのアンテナを折りました。
被告は罪を認めるか。

ノリコ

(横を向いている)

ロボキング
ノリコ

こらノリコ、おまえに質問してるんだ。おまえは罪を認めるか。
認めます。認めますけど、あれはわざとやったんじゃないのよ。

ロボキング

静粛に静粛に。被告は、質問されたこと以外は答えないように。それでは次は反対弁論だが、被告を弁護するやつなんて、どうせ一人もいないだろう。

プリンさんとカンタがやってくる。

プリンさん

ここにいます。

ロボキング

おまえは誰だ。

プリンさん

私の名前はプリン。この子は、ノリコちゃんのお兄さんのカンタクん。

ロボキング

私たち二人が、ノリコちゃんの弁護をします。

おまえら人間だな？ 人間なんかは弁護する資格はない。さっさと出て行け。

プリンさん

人間の裁判をロボットだけでやるなんて、不公平じゃない？

ロボキング

ここはロボット王国だ。人間なんかには用はない。

プリンさん

だったらノリコちゃんにも用はないわね？ それじゃ、一緒に連れて帰りますから。

プリンさんがノリコに手を伸ばす。すると、ロボット軍団がその間に立ちふさがる。

プリンさん

ちょっと、そこをどいてよ。

ロボキング

よし、そこまで言うなら話を聞いてやろう。ただし、一分だけだぞ。

プリンさん

わかったわ。

カンタ

プリンさん、僕が話をするよ。

プリンさん カンタくんが？ いいわ、君に任せる。がんばってね。

カンタが前に出る。

カンタ

ノリコは悪くない。ノリコはロボジロウをこわそうなんて思ってたんだ。僕が外に置きっぱなしにしたから、まさかそんなところにあるなんて知らないで、つい踏んづけちゃったんだ。

ロボキング

ノリコがこわしたことは認めるんだな？ だったらノリコは有罪だ。

カンタ

悪いのは僕なんだ。外に置きっぱなしにした僕なんだ。

ロボキング

それならおまえも有罪だ。おまえたち二人とも有罪だ。

カンタ

ノリコは悪くないって言ってるじゃないか。

ロボキング

私の言うことに不満なら、この広場に集まっている皆さんに聞いてみよう。どうです、皆さん。皆さんはこの二人が有罪だと思いますか。有罪

だと思う人は、今すぐ手を挙げてください。

ロボキングが客席を見回す。

プリンさん

ほら、誰も手を挙げてないじゃない。

ロボキング

何を言ってるんだ。この広場にいる人、全員が手を挙げてるじゃないか。

プリンさん

挙げてないわよ。ねえ、あなたは手を挙げてないわよね？

ロボキング

おまえの目には見えないだけだ。やっぱり二人は有罪だ。

プリンさん

そう思っているのは、あなただけよ。

ロボキング

それはどうかな。おいノリコ。おまえはオモチャを持っているな？ 人

ノリコ
ロボキング

形とか、ぬいぐるみとか、おままごとのセットとか。そのオモチャを、置きっぱなしにしたことは一度もないか？ こわしたことは一度もないか？ 捨てたことは一度もないか？ どうだノリコ！

プリンさん

そうだろう。人間は、人間を大切にはしても、人間以外のものはちっとも大切にしない。動物だってそうだ。植物だってそうだ。海は汚すし、道路には平気でゴミを捨てる。人間は、人間しか大切にしないんだ。自分たちさえよければそれでいいと思ってるんだ。

ロボキング
プリンさん
ロボキング

そんなことないわ。動物をかわいがる人はたくさんいる。植物を熱心に育てる人だってたくさんいる。オモチャを大切にする人だって、この世にはたくさんいるのよ。
しかし、ノリコとカンタは大切にしなかった。二人とも有罪だ。
ちよつと待つてよ。
もうとつとくに一分は過ぎた。ロボット軍団、その男の子を捕まえる！

—————
M 12 「ロボット・チェイス」

ロボット軍団がカンタに近寄る。

プリンさん

逃げるのよ、カンタくん！

カンタ

ノリコは？

プリンさん

私がなんとかする。

カンタ

魔法を使えばいいじゃないか。

プリンさん

それがダメなのよ。今は月が出ていない。雲に隠れちゃってるの。私の魔法は、月の光に助けてもらわないとダメなのよ。

カンタ

そんなあ。

ロボキング

どうした。早くカンタを捕まえるんだ。

そこへ、小さなロボットが飛び出す。ノリコの腕をつかんでいたロボットを叩いて、ノリコを助ける。

カンタ

あつ！　ロボジロウ！

ロボジロウがノリコの手を引っ張って、プリンさんのところへ行く。

ノリコ

ロボジロウ、ありがとう。

プリンさん

あなたがロボジロウなの？　初めまして。私はカンタくんの友だちで、

ロボジロウ

話をしているヒマはありません。早く逃げないと。

プリンさん

でも、どうやって？

ロボジロウ

僕がおとりになるから、そのスキに。

ロボキングがプリンさんたちに近寄る。

ロボキング

これはこれはロボジロウくん。人間どもに味方するとは、いったいどう

ロボジロウ

いうつもりなのかね？

ロボジロウ

おまえこそ、ノリコちゃんとカンタくんをどうするつもりだ。

ロボキング　ロボット工場は人手不足だ。二人には、そこで働いてもらうのさ。死ぬまでな。

ロボジロウ　そんなことは絶対にさせないぞ。ヤーツ！

ロボジロウがロボキングに体当たりする。

ロボキング　おまえみたい小さいロボットが、俺様に勝てると思っているのか。

ロボジロウ　みんな、早く逃げて！

プリンさんがカントとノリコの手を握る。

プリンさん　行くわよ、カントくん、ノリコちゃん。

カント　ロボジロウ！

プリンさん　さあ早く！

プリンさん・カント・ノリコが去る。

ロボキング　こら、待て！

ロボキングが後を追いかけてしようとする。が、ロボジロウがロボキングの足をつかむ。

ロボキング　おい、ロボット軍団、早くあいつらを追いかける！

ロボット軍団が後を追って去る。

ロボキング 放せこら！

ロボキングがロボジロウを突き飛ばす。

ロボキング このお礼は、後でたっぷりしてやるからな。

ロボキングが去る。後を追って、ロボジロウも去る。

————— M12 「ロボット・チェイス」(前景からそのまま流れている)

プリンさんがノリコの手を引っ張ってやってくる。

ノリコ プリンさん、ちょっと待って。

プリンさん どうしたの、ノリコちゃん？

カンタ お兄ちゃんがいないのよ。

プリンさん あら、いつの間に。

ノリコ (周囲を見回して) お兄ちゃん！ お兄ちゃん！

プリンさん カンタくん、どこにいるの？

遠くにカンタが現れる。

カンタ おーい！

プリンさん カンタくん、こっちよ、こっち。早くいらっしやい！

カンタがプリンさんたちの方にやってくる。その後ろから、ロボット軍団がぞろぞろとついてくる。プリンさんはカンタの手を引っ張って、ロボット軍団の前に立ちふさがる。

ロボジロウ （周囲を見回して）カンタくん！ ノリコちゃん！

遠くにプリンさんたちが現れる。

プリンさん ロボジロウ！

ロボジロウ こっちに来てください！

プリンさんたちがロボジロウに駆け寄る。

プリンさん よかった、無事だったのね？

ロボジロウ ロボットがロボットをこわせるわけないでしょう。

プリンさん でも、ロボキングだけは別じゃないかな。

遠くにロボキングが現れる。

ロボキング 今、人間の声でしたぞ。

プリンさん ロボキングだわ。みんな、隠れて！

プリンさんたちが客席の通路に隠れる。

プリンさん （お客さんに）私たちがここにいること、絶対に言わないでね。

ロボキングがやってくる。

ロボキング

確かにこの辺で声がしたんだがな。(お客さんに) おい、今ここに、人間が来なかったか。もし教えてくれたら、ペロペロキャンディーをあげるぞ。(とペロペロキャンディーを出す) なぜ黙ってる。キャンディーがほしくないのか? (他のお客さんに) おまえはどうだ。このキャンディー、とつてもおいしいんだぞ。(とキャンディーをなめる) おまえもなめたいだろう。何? 俺様がなめたからいらぬ? 俺様がなめたのはこつち側だけだ。反対側はなめてないぞ。(他のお客さんに) おまえはキャンディーは好きか。そうか、好きか。じゃ、このキャンディーも好きだな。何、好きじゃない? 好き嫌いをするな! もういい。人間なんかは頼ろうとしたのが間違いだ。自分で探すからいいですよーだ。

ロボキングが去る。プリンさんが立ち上がる。

プリンさん

(お客さんに) 助けられてありがとう。

ロボジロウ

この中に入りましょう。

プリンさん

この建物は?

ロボジロウ

ロボキングのお城です。

プリンさん

こんなところに入ったら、すぐに捕まっちゃうじゃない。

ロボジロウが去る。後を追って、プリンさん・カンタ・ノリコも去る。反対側からロボ

ット軍団がやってくる。

ロボット1 ロボキング様！ ロボキング様！

ロボキングがやってくる。

ロボキング ロボキングじゃない、ロボキングだ。もう、何回言わせるんだ。
ロボット1 人間どもはお城の中に入りました。
ロボキング この中に入って、逃げられると思っっているのか。飛んで火に入る夏の虫

とはこのことだ。行くぞ、ロボット軍団！

ロボキングとロボット軍団が去る。

ロボジロウがやってくる。続いて、プリンさん・カンタ・ノリコがやってくる。

プリンさん

ずいぶん奥まで来ちゃったわね。ここが一番奥の部屋？

ロボジロウ

ロボキングの部屋です。

プリンさん

ロボキングの部屋？ どうしてこんなところへ連れてきたのよ。ロボキングが帰ってきたら、捕まっちゃうじゃない。

ロボジロウ

大丈夫ですよ。（奥に向かって）ロボキング！ ロボキング！

奥から冠をかぶった女のロボットがやってくる。

女のロボキング

私を呼ぶのは誰だ。

ロボジロウ

僕です。ロボジロウです。

女のロボキング

おお、ロボジロウか。待っていたぞ。

プリンさん

ちよつと待って。この人がロボキング？

女のロボキング

いかにも私はロボキングだが、そういうおまえは誰だ。

プリンさん

そんな。ロボキングが二人もいるなんて。

女のロボキング

誰だと聞いているのだ。さっさと答えよ。

プリンさん

私はプリン。この子たちは私の友だちで、カンタくんとノリコちゃん。

女のロボキング ほう。こんなところへ人間が来るとは珍しいな。ロボジロウ、おまえが連れてきたのか？

プリンさん 違います。私とカンタクくんは、ノリコちゃんを追いかけてきたんです。

女のロボキング ノリコちゃんが、ロボキングに連れ去られたから。

プリンさん 私は人間の子供など、連れ去ったりしてないぞ。

女のロボキング あなたじゃなくて、もう一人のロボキングです。

女のロボキング もう一人のロボキング？

そこへ、男のロボキングがやってくる。

男のロボキング やっぱりここにいたのか。もうどこにも逃げられないぞ。ジタバタしないで、ロボット工場に來い。死ぬまで働かせてやる。

女のロボキング もう一人のロボキングというのは、こいつのことか？

男のロボキング あっ、しまった！

プリンさん そうです。こいつです。

女のロボキング こら、おまえはまた自分のことをロボキングだと言ったのか？

男のロボキング ごめんなさい！ ぶたないで！

女のロボキング まったくおまえというやつは、どうしてそうやってウソばかりつくのだ。

おまえがウソをつくたびに、私が恥ずかしい思いをしなければならぬのだぞ。

プリンさん それじゃ、この人はロボキングじゃないの？

女のロボキング ロボキングは私だと言ったろう。こいつは私の弟で、名前はロボキング。

プリンさん ロボキング？ 顔にピッタリの名前ね。

ロボコング
ロボコング

プリンさん
ロボコング

ロボコング
ロボコング

ロボコング
ロボコング

ロボコング
ロボコング

ロボコング
ロボコング

ロボコング
ロボコング

ロボット軍団がやってくる。ロボコングに剣を渡す。

うるさい！

本来なら、ロボット王国の王様には、男であるロボコングがなるはずであつた。しかし、こいつは見ての通りの乱暴者だからな。仕方ないので、姉の私が王様になつた。

ロボジロウをここへ呼んだのは、あなただつたのね？

そうだ。今、ロボット王国はたいへんな危機に陥っている。この危機を救うには、ぜひともロボジロウが必要なのだ。おい、ロボコング。

ハイ。
どうしておまえはこの女の子を連れてきたのだ。ロボット王国によその国の者を連れてきてはいけないと、あれほど言っておいたのに。
聞いてください、ロボコング。こいつはロボジロウをこわしたんです。

(ノリコに) それは本当か？
：：：ハイ。

しかし、わざとやったわけではないだろう。
ロボジロウだけじゃありません。こいつは他にも、たくさんのオモチャをこわしてきたんです。

しかし、子供がオモチャをこわすのは仕方のないことだろう。
それじゃ、ロボコングはこいつを許すんですか？
(ノリコに) 今度からは、オモチャを大切にするのだぞ。

ハイ！
俺様は許さない。俺様は絶対に許さないぞ。ロボット軍団！

プリンさん
ロボキング

何をするの？

ロボキング。あんたがそうやって甘っちょろいことばかり言ってるから、オモチャがどんどんこわされるんだ。あんたには、オモチャの気持ちがかかってないんだ。

私を殺す気か？

心配するな。あんたのかわりに、俺様がロボキングになってやるから。

プリンさん！

月は、月は出てる？

カントが空を見上げる。

カント

出てるけど、半分だけだ。

プリンさん

半分じゃダメなのよ。私の呪文が月に届かないの。

カント

でも、魔法を使わないと、ロボキングが殺されちゃうよ。

プリンさん

イチかバチか、やってみましょう。みんなで呪文を唱えるのよ。

「M13」ムーンライト・マジック

プリンさん

お願い月の光よ 私の声を聞いてよ
闇に迷った旅人に 道を教えるその光で

私の悲しみ消して 明日はきつと

いい日が来ると 信じていたから

ルーナルルーナル

プリンさん

さあ、カンタくんも一緒に言って。ルーナルルーナル！

カンタ

ルーナルルーナル！

プリンさん

さあ、ノリコちゃんも。ルーナルルーナル！

ノリコ

ルーナルルーナル！

プリンさん

ダメだわ。でも、もう一度。

お願い月の光よ 私の声を聞いてよ

家をなくした子犬に ほほえみかけるその光で

私の寂しさ消して いつかまた

あの人に会えると 信じていたいから

ルーナルルーナル

プ・カ・ノ

ルーナルルーナル！

プリンさん

（客席に向かつて） みんなも一緒に手伝って。ルーナルルーナル！

プ・カ・ノ

ルーナルルーナル！

プリンさん

（客席に向かつて） もっともっと大きな声で。ルーナルルーナル！

プ・カ・ノ

ルーナルルーナル！

まぶしい光。その光の中から、フランス人形のシャルロットが現れる。

プリンさん

シャルロット

プリンさん

シャルロット

プリンさん

シャルロット

ノリコ

プリンさん

ロボコング

プリンさん

カント

プリンさん

ロボコング

プリンさん

シャルロット！

こんなところに呼び出して、私に何の用？

一つだけ教えて。あなたはノリコちゃんに、一度でもいじめられたことがある？

あるわけないでしょ？ ノリコちゃんは、私を大切にしてくれ

わ。毎朝、おはようって言ってくれたし、夜寝る時にはおやすみって言

ってくれた。髪もとかしてくれたし、服が破れたら自分でぬってくれた。

あなたはノリコちゃんが好き？

好きよ。だって、私にシャルロットって名前をつけてくれたのは、ノリ

コちゃんだもの。

ありがとう、シャルロット。

ロボコング、今のを聞いた？ 人間は自分のことしか考えないって言う

けど、それは間違いよ。確かにそういう人もいるかもしれないけど、ノ

リコちゃんみたいに、自分以外のものを大切にする人もきつといる。

そんなの、ほんのちよつとだけだ。

これからもっと増えるわよ。少なくとも、私は自分以外のものをもっと

大切にする。

僕も大切にするよ。オモチャを置きっぱなしにしたりしない。

ほら、これで二人増えたわ。(客席に向かつて) みんなも大切にするで

しょ？ ほら、もっと増えたわ。

(客席に向かつて) 本当だろうな？

少しは人間を信じなさいよ。あなたもオモチャだけじゃなくて、人間の

ことも大切にしたら？

ロボキング

そうだぞ、ロボキング。おまえはオモチャのことしか考えてないが、オモチャは人間となかよくするためにこの世に生まれてくるんだ。

その時、非常ベルの音が聞こえる。

プリンさん

何の音？

ロボキング

非常ベルだ。さては、ロボット工場で何か起きたのか？

ロボット工場の工場長がやってくる。

工場長

たいへんです、ロボキング様。

ロボキング

どうしたのだ、工場長。

工場長

ロボット工場の機械が止まりました。コンピューターがこわれたんです。

ロボキング

すぐに工場のロボットを避難させよ。

工場長

ハイ！

ロボキング

俺たちも行くぞ！

工場長が去る。

後を追って、ロボキングとロボット軍団も去る。

プリンさん

コンピューターがこわれると、どうなるの？

ロボキング

爆発するのだ。下手をすると、ロボット王国全体が吹き飛んでしまうかもしれない。

プリンさん

なんですって？

ロボキング
ロボジロウ おまえたちは、すぐに人間の国に帰りなさい。行くぞ、ロボジロウ。
ハイ！

ロボキングとロボジロウが去る。

プリンさん どうしよう。

カンタ ロボジロウを残しては行けないよ。

プリンさん わかったわ。私たちも行きましょう。

ノリコ 私も行く。

プリンさん ノリコちゃんは、シャルロットと先に帰ってて。シャルロット、ノリコ

ちゃんを頼むわよ。

プリンさんとカンタが去る。

ノリコ お兄ちゃん……。

シャルロット 大丈夫よ。プリンさんが、きっとなんとかしてくれるわ。

ノリコとシャルロットは反対側に去る。

緊急ブザーの音。工場長とロボキングがやってくる。

ロボキング

コンピューターはどこだ。

工場長

向こうのコントロール室です。

ロボキング

よし。(と走り出そうとする)

工場長

(ロボキングを止めて) あなたが行って、何をしようって言うんです。

ロボキング

いや、その、何か手伝うことはないかと思っ……。

工場長

あなたが来ても、邪魔になるだけです。早く工場の外へ逃げてください。

ロボキング

しかしだな。

ロボキングとロボジロウがやってくる。

ロボキング

工場のロボットは全員逃げたか？

工場長

残るは私一人です。

ロボキング

よし、おまえも逃げるのだ。

工場長

しかし――――

ロボキング

これはロボキングの命令だ。後のことは、私に任せなさい。

工場長が頭を下げて去る。

ロボキング

おまえはどうしてここに居るのだ。

ロボキング

ロボキング、俺にも何か手伝わせてくれ。

ロボキング

おまえがコンピュータを触ったら、余計にこわれるだけだ。さっさと

外へ逃げろ。

ロボキング

俺だって、何かの役に立ちたいんだ。

ロボキング

おまえがこわれたオモチャを次々と連れてこなければ、こんなことには

ロボキング

ならなかったのだ。

わかってるよ。わかってるから、俺は逃げるわけにはいかないんだ。

プリンさんとカンタがやってくる。

プリンさん

ロボジロウ！

ロボキング

なんだ、おまえたちまで。私は人間の国に帰れと言ったはずだ。

プリンさん

私の魔法で、コンピュータが直せるかもしれないわ。

ロボキング

魔法で機械が直せるものか。

プリンさん

それじゃ、爆発するのを黙って待つの？

ロボキング

今、世界一のはかせが直してくださっている。私たちは、それを信じて

プリンさん

待つしかないのだ。

世界一のはかせ？

ロボキングが奥に進む。

ロボキング

はかせ！ はかせ！

奥には大きなロボットが立っている。その胸の部分を開けて、中をのぞきこんでいた男が振り返る。もちろん、トンダはかせだ。

トンダはかせ
プリンさん
トンダはかせ

うるさい。私に、今、話しかけるな。

トンダはかせ！
おう、プリンさんじゃないか。久しぶりだな。と言つても、あれから一時間も経ってないか。

プリンさん

どうしてはかせがこんなところに？

トンダはかせ

詳しい話は後だ。急がないと、こいつが爆発してしまう。

プリンさん
ロボキング

これは何？
ロボット工場のすべてを動かす、コンピューター・ロボットだ。こいつが直せるのは、世界広しと言えども、トンダはかせしかいない。

トンダはかせ

てれるなあ。

ロボキング

どうだ、はかせ。なおせそうか。

トンダはかせ

…ダメだ。

ロボキング

ダメだと？ おまえそれでも、世界一のはかせか？

トンダはかせ

いくら世界一の私にだって、できることとできないことがある。見てみる。この部品が完全に焼けてしまっている。

ロボキング

やはりR-4型の回路ですか。

トンダはかせ

そうだ。こいつをすぐに取り替えないと、このロボットは爆発してしま

ロボコング
トンダはかせ

ロボキング
ロボコング
ロボキング

プリンさん

ロボキング
プリンさん
ロボキング
ロボコング
プリンさん
ロボコング

トンダはかせ
ロボコング
トンダはかせ
ロボコング

うぞ。

だったら、すぐに取り替えればいいだろう。

それができれば、とつくにやってるさ。ロボット工場の隅から隅まで探したが、これと同じ部品はどこにもなかった。

R-4型の回路は、ロボット王国にはないのだ。

それじゃ、もうどうしようもないのか？

だからロボジロウを呼んだのだ。ロボジロウのカラダの中には、それと同じ部品が入っている。

ちよつと待って。ロボジロウのカラダからその部品を取ったら、ロボジロウはどうなるの？

動かなくなる。

それってまさか、死ぬっていうこと？

そのかわりに、ロボット王国のロボットたちが救われるのだ。

だからって、ロボジロウが死んでいいってことにはならないでしょ？

俺の部品を使ってくれ。

ロボコング……。

このロボットをこわしたのは俺だ。俺がこわれたオモチヤを連れてこなければ、こんなことにはならなかった。全部、俺が悪いんだ。だから、

俺の部品を使ってくれ。

おまえにはR-4型の回路は使われていないだろう。

似たようなのがあるだろう。そいつをかわりに使ってくれ。

R-4型でなければダメなんだ。

でも、ロボジロウは何も悪いことをしてないじゃないか。

ロボキング
ロボジロウ
カンタ
トンダはかせ
プリンさん
トンダはかせ

仕方ないのだ。ロボジロウはもう覚悟を決めている。そうだな？
ハイ。
待ってよ。
もう時間がない。早くロボジロウから部品を取り出さないと。
プリンさん、なんとかしてよ。
ダメなのよ。また月が隠れちゃった。もう、月のバカ！ 一番魔法が
必要なのに。
さあ、ロボジロウ。

—————
M14「さよなら」

ロボジロウがトンダはかせに向かって歩き出す。

カンタ
ロボジロウ
カンタ
ロボジロウ
カンタ
ロボキング
プリンさん
ロボキング

ロボジロウ、行くな！
カンタくん、君と一緒に遊べて、とっても楽しかったよ。
でも、僕はロボジロウを置きっぱなしにした。投げたり、落としたりし
た。ごめんよ、ロボジロウ。
謝ることないよ。僕は楽しかったんだから。
でも……。
子供がオモチャをこわすのは、仕方のないことだ。
ロボキング！
だってそうだろ？ こわれないオモチャなんて、この世にはないんだか
な。でも、こわれたからって、すぐに捨てられるのは淋しい。せめて一

言、さよならって言ってもらえれば、それでオモチヤはうれしいんだ。
トンダはかせ ロボジロウ、早く！

ロボジロウがトンダはかせに歩み寄る。

プリンさん カンタくん。

カンタ ロボジロウ、さよなら。

ロボジロウ さよなら、カンタくん。

急速に暗くなる。

プリンさん・カンタ・トンドはかせがやってくる。

プリンさん　　ただいま！　みんな、ただいま！

ノリコ・パパ・虫メガネ探偵団がやってくる。

パパ

カンタ、無事だったのか！

プリンさん

ご心配をかけてすみませんでした。

パパ

このまま帰ってこなかったらどうしようかと思いましたよ。せっかくの

誕生日なのに。

プリンさん

そうそう、今日はカンタくんの誕生日だったんですね。どうせだから、

トンドはかせ

もう一度パーティーをやり直しませんか？

それはいいなあ。私はまだケーキを食べてないし。お母さん、さっきの

プリンさん

ケーキを持ってきてください。

パパ

あれ、お母さんは？

パパが去る。

プリンさん
ノリコ
プリンさん
ノリコ
カント
プリンさん

ノリコちゃん、シャルロットは？
家に帰ってきたら、急に動かなくなっちゃったの。
魔法が切れたのね。でも、ノリコちゃんも無事に帰れてよかったわ。
お兄ちゃん、ロボジロウは？
……。
今はそっとしておいてあげて。

大きなケーキを持って、パパとママがやってくる。

—————
M15「ハッピー・バースデー」

パパとママ

ハッピー・バースデー
生まれてきてよかったね
ハッピー・バースデー
君に会えてよかったよ

パパ

どうしたカント。うれしくないのか？ ノリコも無事に帰ってきたんだぞ。

ママ

笑ってよカント。あなたの誕生日なのよ。
あら、月がまた出てきたわ。

プリンさん
トンドはかせ

元気を出せ、カントくん。虫メガネ探偵団の団員が、いつまでもしよぼくれているはいかんぞ。

ノリコ お兄ちゃん、フアイト。
プリンさん さあ、カンタくん。あなたがケーキを切るのよ。

プリンさんがカンタにナイフを渡す。

プリンさん 上手に切ってね。最初は真ん中から二つに切るのよ。

カンタがナイフをケーキにあてる。

プリンさん ルーナルーナルー！

カンタがケーキを切る。真っ二つに割れたケーキの中から、ロボジロウが現れる。

カンタ ロボジロウ！

ロボジロウ カンタくん、誕生日おめでとう。

プリンさん 大きな宇宙の 小さな地球で
君は生まれた 今日生まれた

僕のすぐそばで生まれた

君の目 君の声 君の笑い顔

プトパマノ虫ロ みんなステキだよ
ハッピー・バースデー
生まれてきてよかったね

ハッピー・バースデー
君に会えてよかったよ

トンドはかせ・パパ・ママが去る。

プリンさん

熱い夏の日 寒い冬の日

君は生きてゆく ずっと生きてゆく

僕と一緒にずっと生きてゆく

君の夢 君の歌 君の走る姿

みんなステキだよ

ハッピー・バースデー

生まれてきてよかったね

ハッピー・バースデー

君に会えてよかったよ

プノ虫カロ

カンタ・ノリコ・ロボジロウ・虫メガネ探偵団が去る。プリンさんだけが残っている。

白い魔法つかいたちがやってくる。

—————M 16「トンガリぼうしの魔法つかい」

魔法つかいたち

白い月が昇ったら
窓を開けて 夜空を見上げて

ほら トンガリぼうしが 通り過ぎる

悲しい寝顔の女の子には

そつと笑顔の魔法をかける

私は月の魔法つかい

トンガリぼうしの魔法つかい

プリンさん

これで私のお話はおしまい。みなさん、どうでしたか？ ロボコング、こわかった？ でも、あの人も本当はいい人なのよね。見た目はちよつとこわいけど、自分のことより、仲間のオモチャのこの方を大切に思っている。だから、オモチャをこわす人間が許せなかったのよ。私もロボコングみたいになんたいな。自分のことだけじゃなくて、他の人のことも考えられるようになりたいな。それから、自分のまわりにあるすべてのものを

魔法つかいたち

大切にしたい。ロボット王国に行つて、私はそんなことを考えました。
それではみなさん、さようなら。また会える日を、楽しみにしています。
青い屋根を飛び越えて
忘れた夢 届けに行こう
さあ トンガリぼうしが 舞い降りる
ひとりぼっちの男の子には
楽しいお話 聞かせてあげる
私は月の魔法つかい
トンガリぼうしの魔法つかい

魔法つかいたちが去る。あたりが次第に明るくなっていく。夜明けの時間だ。それでも、
月は白く輝いたままだ。